

1 生徒の実態(実態把握・調査結果の分析)

(1) 生徒の実態

1年→生活や技能について感心を持ち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする生徒が多い。生活に必要な基礎的な技術を身に付けている生徒は大変多いが、学校の実習の場を除くと、その技術を発揮できる機会や場所が極端に少ない。

2年→全体的に落ち着いて授業に意欲的に取り組むことが出来る生徒が多い。

3年→生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術との関わりについて理解し、知識を身に付ける力は大変素晴らしいものを感じる。また、真面目に授業に取り組みことができ、エネルギー変換や情報の領域では多くの生徒が興味・関心を持っている。

(2) アンケート調査結果の分析

全学年・・・授業時数の少ない中で、ていねいな説明が必要である。授業のねらいや評価の目標が徐々に伝わりつつある事が分かった。

2 指導上の課題

- ・ものづくりの手順を徹底して習得させる。
- ・基礎的・基本的技能を習得させる。
- ・生育領域では栽培計画を立てられるようにする。
- ・エネルギーの変換や基本的な仕組みを理解することができる。
- ・コンピュータでは情報処理とプログラム制御ができる。

3 授業改善の視点とその方策

- ・工程表の作成等を通してものづくりの見通しを立てさせる。
- ・構想図の書き方に時間をかけ、多くの練習問題にチャレンジさせる。
- ・創意・工夫することの出来る題材を精選し、作業の時間の確保を図る。
- ・地域にあった、生育育成の題材を取り上げる。
- ・電気部品の名称と働きと実習に重点を置いた指導を行う。
- ・プログラム制御は時間をかけてゆっくり行う。
- ・テスト前には希望者に放課後補習を行う。

4 その他

- ・進度の遅い生徒、休んだ生徒への対応は放課後や昼休みなどを利用して行い進度を合わせ、次の授業へスムーズに入れるようにする。